

【レポート】

「自治研」とは……地方自治研究の略で労働組合が主体的に地方行政や自治研政策、自らの仕事のあり方について研究し、実践していくこと。

ひょんなことからスタートした私たちの自治研活動。右も左も分からないまま、「まずは実践！」と取り組んできました。「自治研って何？」と疑問を持ちながら、実践してきた活動も、しばらく活動が途絶え、また新型コロナウイルス感染症の蔓延により、再開できない状況が続きました。

しかし、いよいよ2024年、新たな気持ちで再開することとなりました。地域への貢献も加えて取り組みます。

地震に負けない！ 「楽しむ自治研の再開に向けて！」

石川県本部／七尾市職員労働組合・自治研対策部

1. 能登半島地震

2024年1月1日16時10分、突如、大地震が私たちのまちを襲いました。これまで経験したこともない、ものすごい揺れで、瓦が落ち、立っているものはすべて倒れ、生きた心地がしませんでした。外へ出れば、崩れた家、隆起や陥没した道路、泣きわめく子どもたち、途方に暮れる住民たち。

先人たちが長く受け継いできた財産、地域に根差した産業、それらの多くをわずかな時間の揺れに奪われてしまいました。

新型コロナウイルス感染症の終息に伴い、本格的に自治研活動を再開しようと思っていた矢先の大惨事でした。

私たちは、まずは自治体職員として避難所の運営や復旧に向けた業務に日々明け暮れ、気付けば4月になっていたという感じです。全国の自治体からたくさんの職員が業務の応援に駆けつけてくれ、復旧が少しずつ進むにつれて、私たちも少しずつ地震前の生活に近づきつつあります。

このような中で、なかなか自治研活動に踏み出せない状況ではありますが、これまでの活動を振り返るとともに、これからの活動を考える機会としたいと思います。

2. 「自治研活動の始まり」

2010年4月に石川県本部で開催された学習会で自治研活動の強化が提案されました。そこに七尾市職労の自治研対策部長が参加していたところから私たちの自治研活動が始まりました。

「自治研活動を活発に！」と言われたものの何をどうしたらいいのか？ 悩んでいても始まらないとこのことで、メンバーを募集。総勢8人のメンバーが集まりました。「自治研活動って??」と疑問を持ちながらの意見交換を繰り返しながら、「職場や七尾市に関するフリートークの中から実際に職場に導入できるもの、市民のためにできることなど、近い将来実現可能な試みをリストアップし、実践する」という目標を設定し、様々な意見の中から活動方針を決め「自分たちのまちをもっと知る！」、「まちをもっと良くしよう！」を合言葉に動き始めました。

1年目は「石川県自治研集会」や「愛知自治研集会」に参加し、全国の組合員の活動報告を聞き、大きな刺激を受けた後、「第1回レクリエーション大会」を企画し、開催しました。当市は、2004年10月に4つの自治体の合併により、庁舎の分散化、職員数の増大、コミュニケーション機会の減少など職場環境の悪化が懸念されていました。

そこで、「組合員全員が参加できる場づくり」が大切だと考え、競技種目にも工夫を凝らして開催したところ、予想を超える250人の参加を得て、成功裏に終えることができました。

3. 「自治研活動の軌跡」！

2年目以降、1年目に決めた活動方針に従ってどのような取り組みをすればよいのかなど、メンバーで語り合いました。どうすれば多くの方に参加してもらえるのか、地域に関心をより持ってもらうのか、など。取り組み自体がカタすぎてもダメ、柔らかすぎると「遊び」にしか思ってもらえない……苦闘は続きました。

しかし、私たちは決めました。考えすぎず、背伸びしすぎず、「やりたいことをやろう！」と。それ以降、取り組みを行う中で、自分たちも「地域を知る」機会になるとともに、参加する組合員にも楽しんでもらえるような企画を立てました。

これまで行った取り組みの一部を紹介します。

(1) 「メンバーの業務内容を知る発表会の開催」

【開催日】2011年3月～6月

自分の担当業務や課題などを発表し、それに対してメンバーで意見交換をしました。同じ職場にいながら、多種多様な業務があることに驚きました。

情報の共有や公共サービスの向上を図るため、自治研ワーキンググループとして活動できるものがあると認識しました。



発表会の様子

(2) 「日本五大山城七尾城跡ハイキングウォーキング」

【開催回数】1回（2011年）

七尾市の代表的な歴史遺産「七尾城」を知るため、車ではなく、大手道から本丸をめざして登りました。

城山の麓にある「七尾城史資料館」で事前学習をした後、本丸まで40分かけて山を登り、難攻不落の堅固なつくりを体験。地域の歴史や文化を知ることの大切さを改めて認識しました。



七尾城跡本丸付近で解説を聞くメンバー

(3) 「組合員レクリエーション大会」

【開催回数】3回（2011年～2013年）

組合員同士の交流を目的に開催し、部局単位で3グループに分け、グループ対抗戦として数々の競技を行いました。

順位が出るとなると、みんな真剣そのもの。終了後は、グループごとに懇親会をするなど、親睦が深まりました。

2回目以降は、競技種目を工夫し、組合員だけではなく、家族も参加しやすくするなど、競技を通して親睦が一層深まりました。

開催時期によって、参加者数が変わるため、時期を変えての開催や継続開催の必要性を実感しました。



紅白玉入れの様子

(4) 「ぴっかぴっかのななおプロジェクト」

【開催回数】2回（2012年～2013年）

第1回は、5月3～5日に市街地で開催され、多くの観光客で賑わう、国指定重要無形民俗文化財の「青柏祭」（高さ12m、車輪の直径2m、重さ20トンの「でか山」と呼ばれる曳山3台が曳き回されま

す。)に先立ち、市内中心部の清掃活動を行いました。

第2回は、「青柏祭」終了後の街なかの清掃活動をしました。輪島市職労14人の仲間に参加して頂き、共同で実施。単なるごみ拾いではなく、『清掃中!』と称してゲーム感覚で行いました。チーム対抗として、指定スポットの写真撮影など、3つのミッションを設け、さらにはごみも拾ってくるというものにしました。

写真の撮り方・笑顔・美化活動(ごみの量)・タイムの総合点で順位を決定しました。

市街地の街並み、祭り、人とのふれあい等、まちの魅力を実感しました。



街なかを巡りながらのごみ拾い

(5) 「金沢城リレーマラソン」

【実施回数】4回(2013年~2015年、2018年)

職員の健康親睦と七尾のPRを目的に参加。

駅伝形式の仮装パフォーマンスが有名な大会で、Tシャツ背面に月ごとの七尾のイベントを表示し、参加者や沿道の皆さんにPR。さらには、応援団として「とうはくん」や「能登カッキー」などのゆるキャラが参加し、さらには、ぶりが有名な七尾のPRのため「ブリの被り物」を被った我がランナーが花を添え、大いに七尾をPRできました。

「能登国立国1300年」の節目の年の大会では、「パフォーマンス賞」を受賞しました。



特設ステージで七尾市をPR

(6) 「白米千枚田 結婚式&稲刈り&BBQ」in 輪島

【開催回数】1回(2013年)

世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」で、最も象徴的な景観として知られる輪島市の「白米千枚田」での稲刈りと、その中を進む伝統結婚式にスタッフとして参加。稲刈りという貴重な体験と併せ、輪島市の歴史文化に触れることができ、また、終了後は地酒と鮑を肴に行った輪島市職労の皆さんとの懇親会は盛り上がりました。

(7) 「青柏祭でか山 人形見ツアー」

【開催回数】9回(2014年~)

青柏祭(国重要無形民俗文化財)に先立って開催される「人形見」の魅力を感じ、観光資源としての魅力を確認しました。前述の「ぴっかぴかのまちプロジェクト」と併せて、「でか山」の組立や解体、人形見など、3年間の活動で、本祭以外の魅力を強く実感しました。

地域の歴史と文化を知り、七尾の営業マンとしてこれからしっかりと発信します!

(8) 「崎山半島里山里海巡り」

【開催回数】1回(2014年)

世界農業遺産「能登の里山里海」に象徴される「里山里海」が、今に息づく崎山地区の地域資源を巡るミニツアーを実施しました。

私たちにとっては何気ない農漁村ですが、旅行雑誌の関係者がこの地域を訪れた際、ここに住む人たちの努力や将来への意気込みに惚れたというほど、隠れた資源が多い地域です。私たちは、定置網体験や「鉄砲ぐり」調査などを通して、地域の方々とも交流しました。

将来的には、旅行商品となるようなミニ体験コースになればと、手作りの観光マップ「さきやまっぷ」を作りましたが、これが、地域団体のパンフレット『崎山の歳時記』



「さきやまっぷ」の見開きページ

や案内地図などにも見事採用されました。

4. 取り組みの中断

ここまで順調に取り組みを進めてきましたが、主力メンバーが多忙な部署に配属となったり、結婚や出産など家庭の事情などにより活動できる時間が減少するなど、自治研活動をこれまでのように進めることができなくなりました。

また、主力メンバーの意思を引き継ぐという大切な後継者づくりを真剣に取り組んでこなかったこともその原因かもしれません。

それでも、新旧メンバーが思いを一つにして、そろそろ再開しようかと相談し始めた矢先、今度は、新型コロナウイルス感染症が全国的に蔓延するなど、再開がさらに先延ばしとなりました。

一方で、その間にも、駅前再開発ビルへの市健康福祉部門の転居や新採職員の入庁、保育士など専門職職員の行政部門への転籍など、職員同士の交流が必要な状況が発生し続け、これまで以上に自治研活動の必要性が求められてきました。

そして、2021年秋、自治研対策部の役員同士で「新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、必ず再開しよう」と決意しました。

5. コロナ後の取り組み

2022年度に入り、これからの自治研活動として、「地域課題の解決への取り組み」と「職員同士のコミュニケーション」を目的に取り組むこととしました。

職員間の交流事業は今後の感染状況を見ながらということでは保留にしていますが、地域課題の解決への取り組みとして、まずは、深刻化する公共交通の維持を目的とした取り組みは、すぐにでも始めようということになりました。

人口減少が進む七尾市では、農村部を中心に「高齢者向け乗り合いタクシー」や「デマンド型タクシー」が導入されるなど、公共交通の維持は大変大きな課題になっています。

そこで、まずは、マイカーでの通勤をできるだけ控え、二酸化炭素削減などSDGsにも貢献する機会を作ろうということで、公共交通の通勤利用に対する補助制度を設けて実施しました。

(1) 通勤での公共交通の利用促進

【取り組み期間】2022年7月11日～15日



公共交通利用者は、マイカーの普及や人口減少、さらには新型コロナウイルス感染症などにより、利用者が大きく減少し、それが運行本数の大幅減や複数路線の統合につながるなど、利用者にとって利用しにくい状況になりつつあります。

このままでは、利用しにくい公共交通という認識が増え、廃線や廃止につながるのでは、という強い危機感から、取り組みを行うこととしました。

七尾では、マイカーが中心の生活ですが、通勤に公共交通機関を利用してもらおうと期間中は運賃全

額補助としました。賛同者は少ないだろうなと思っていましたが、残念ながら、実績も少なくわずか9人でした。しかし、まずは、この取り組みを組合員に紹介できたこと、お願いできたことは、今後につながる大きな一歩だと考えています。

また、公共交通について考える貴重な機会になったとも思います。

今後も継続して、そして市内の企業とも連携して実施していく必要があると強く感じました。参考ですが、アンケートでは以下のような意見がありました。

- ・電車時間に合わせ、仕事を切り上げなければならないが、その分早く帰宅できた。
- ・公共交通を守るため、このような取り組みを継続してほしい。
- ・出勤時間帯の便が少ないため、地域によって利用が限定される。
- ・まずは、利用の必要性が高い利用者（小学生、中学生、高校生、高齢者）が利用する路線を最優先にして公共交通を維持していけばどうか。

（2）公共交通を利用した市内巡り

七尾市は、能登観光の宿泊拠点であり、かつ見どころの多い地域でもあります。多くの観光客が公共交通機関を利用して、市内を巡っておられます。

その利便性などを自ら体験し、より良い路線やダイヤの設定を提案するため、自治研活動として取り組む予定でしたが、実施できませんでした。

現在、和倉温泉の旅館はまだまだの状況ですが、市内の観光施設は少しずつ再開し始めています。また、市内のみならず、周辺市町も含めて考えていけたら……とも考えており、状況を見ながら、取り組んでいきたいと思っています。

（3）能登半島地震からの復旧と復興への取り組み

まだ決めてはいませんが、今回の能登半島地震による被災を受けて、自治研として何らかの取り組みをしたいと思っています。

例えば、復旧作業、復興イベントなど市民の方々と共に行う取り組み、被災状況を後世に引き継ぐための取り組み、などなど、様々な取り組みが考えられます。ただ、一方で、私たちは自治体職員としての立場も持ち合わせているため、市民の方々の目も様々であり、しっかり区別して取り組む必要があるのかなとも思っています。

6. これからの取り組み

前述のように、能登半島地震後、現在までは自治研活動はできていません。

現在も市内には避難所や仮設住宅で暮らす方が多く、多くの道路に凹凸や傾きが残り、幹線道路の通行止めも続くなど、復興どころか復旧さえもまだまだ先が見通せない状況です。

このような中で、自治研活動として、何ができるのか。

これまでのようなレクリエーション的な取り組み、災害に関する取り組み、地域の方々との取り組み、など様々な取り組みがありますが、私たちは自治体職員としての災害対応が続く中で、十分に話し合うことができていないのが実態です。

そのような中で、今回「しまね自治研」に参加できたことは大変貴重な機会であり、改めて「自治研活動」の意義を認識し、我がまちの現在をしっかりと把握し、そして将来を見据えた時に、必要とされる取り組みがあると考えます。

少し落ち着いたら、メンバーでじっくり話し合い、取り組んでいきたいと考えています。